

## ソーシャル・イノベーション創出センター構想 知事メッセージ

長野県立大学の開学にあたって、学生への教育をしっかり行っていくことは重要課題であり、それと同時に、これからの地域社会、長野県を発展させていく上で、長野県立大学が知の拠点となることも重要である。

日本はまさに課題先進国であり、とりわけ、多くの中山間地域を抱える長野県は、課題の最先端地域と言っても過言ではない。ただし、課題が多いこと自体は、悲観すべきではないと考えている。それは、課題があるからこそ、それに対して対応し、イノベーションを起こし、次の時代に向けて展開していくということにより、新しい社会が作られていくからである。課題が顕在化していればいるほど、実は新しい未来に向けてのビジョンは描きやすいと考えている。

そのときに重要なことは、その時代の転換をもたらしていくための知恵、ノウハウ、そして、縦割りの分野を乗り越えて、行政や民間企業、大学など様々な主体が連携・協力し合うことである。こうした動きこそが、社会にイノベーションをもたらすには必要である。

この長野県立大学のソーシャル・イノベーション創出センターの活動によって、長野県のような地域のいろいろな分野の方々が、様々な課題を抱え、孤立している中で、なかなか課題に向き合いきれていない、あるいは、課題を解決するだけの力の蓄えがないという部分を、是非ブレイクスルーをしてほしい。

長野県立大学から新しいソーシャル・イノベーションの動きをつくり、こうした動きが、地域社会あるいは日本全体の発展に大きな一石を投じることを心から期待している。

平成 29 年 10 月 27 日

長野県知事 阿部 守一